

成田十次郎先生の追悼文

新井 博

成田十次郎先生が永眠なされました。我々体育・スポーツ史研究者にとって大変悲しいことであり、謹んで心よりお悔やみ申し上げたいと存じます。

先生は、体育・スポーツ史の高名な研究者であります。一方でサッカーの優れた選手・監督であったばかりでなく、クラマー氏の招聘など日本サッカー界にとって数々の功績を残してこられたことで知られています。

ここでは、体育・スポーツ史研究者また教育者としての先生について、私が院生時代に知ったことや先生御自身の著『私とドイツスポーツ史の研究』（1996年）と『サッカーと郷愁と』（平成22年）から一部を紹介させていただき、御功績を称えたいと思います。

先ず、先生は体育・スポーツ史の分野における国際的な仕事を成就されました。1967年にユネスコの協議団体「国際体育・スポーツ学会連合」の専門部会として「国際体育・スポーツ史委員会」が設立され、先生は副委員長になりました。そこで、世界の体育・スポーツの促進や国内外の研究組織の結成や研究会の開催を支援する活動を積極的に続けられました。1978年に八王子で「国際体育・スポーツ史東京セミナー」を開催し、この分野における国際会議の先例を作りました。また1994年に高地で「東北アジア体育・スポーツ史セミナー」を開催して、まさに研究における東西の架け橋を結ぶ役割を果たされました。

また、研究教育において多くの体育・スポーツ史の研究者を世に送り出してこられました。先生が若い頃、仲間を集めて開催した研究会から、当該分野の基盤を構築された先生方が生まれ、その先生方から育った大勢の研究者が活躍され、今日では次世代の優秀な研究者が意気揚々と研究に取り組まれています。また韓国や台湾などでも礎となる先生方を御指導され、今日彼らのお弟子さん等が活躍されています。言うまでもなく、それ以外多くの研究者が成長して、活躍されております。

さらに、御自身の研究において、近代ドイツ体育・スポーツ史研究を第1巻から4巻までまとめられ、日本とドイツの体育・スポーツの在り方の違いを徹底して追及されてきました。

以上は、僅かなもので、他の功績は幾ばくか計り知れません。今日、私たちの立ち位置を問い直す上でも、先生の偉大な功績の一部でも後世に伝えることに否を唱える者はいないでしょう。深く、ご冥福をお祈りいたします。